



南雲正美

# 新潟県中越地震発生後における 町の避難、支援等の対応について

新潟県中越大震災で犠牲となった40名の方々への御冥福と家屋全壊などの被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を願うものであります。

10月23日、17時56分に突如床を強く突き上げ、激しい横揺れが三回発生して、郡内は停電のため暗闇となった。  
自家用発電機で茶の間に明かりをつけると孫達の顔は安堵の表情になった。テレビでは各地の震度と被害状況が報道され、翌日明るくなると次々に各地の被害が報道されて大震災と確認された。

## 質問

地震発生後、町は災害対策本部を設置し、翌日昼には解散した。

10月27日災害警戒本部と災害対策支援室が設置された。28日広報で町民に周知された。地震発生から五日後に周知では対応が遅すぎると思うがどうか。町はわが家の防災マップを各戸に配布済みであるが、肝心な対応がなされていない。  
湯沢保育園では鍵がなく避難者はいれなかった。  
一人老人、寝たきり老人、車椅子の方の救援策はなかった。救急事を想定して、町と町内会長、民生、福祉各委員と共同して救援策を策定すべきだ。

## 町長答弁

対応が遅れた事は反省している。湯沢保育園に避難者が入れなかった事は、深く反省し対応する。緊急事

の避難救援体制は必要であり、今後早急に検討する。

## 質問

地震発生後、災害対策本部を設置したが機能は充分に果たせたか。

懐中電灯では適切な対応は出来ない。発電設備を早期に設置すべきと考えるが、対応について伺う。緊急通信設備も停電により、町内通信設備は機能を果たせなかった。緊急事に備え、衛星通信等の検討が必要であるが、対応を伺う。

## 総務課長答弁

発電設備は必要と痛感した。本部と避難所も併せて次年度対応する。緊急通信設備も早急に検討する。

## 質問

被災地への迅速な支援について。各被災地は東京都をはじめ全国各地より多くの各種支援者が活動し、支

援のお礼を伝え聞くと私達の所で災害を受けてを想定して、実務対応が必要と答えた。

我が町はこのような対応を目的に積極的職員の派遣は必要だ。

## 町長答弁

25日、十日町市へ給水車、29日、職員五名を五日間と、山古志避難所、川口町等に派遣をした。

## 質問

避難所の給食支援活動について。大震災により多くの避難者で大混乱の状況で、食料不足が幾日も続いていたにもかかわらず、町は26日(火)は学校給食ありの通達、避難所では一食おにぎり一個を二人で分けて何日も続けていた。学童への給食を休止して、避難所へ町として心あたらない給食支援活動は、どうしてやれなかったのか、他人へ支援

する心はないのか、非常に残念である。

町内民間業者は、震災2日後、社業休止で食料と水を支援している。

町長に対応の考えを伺う。

## 町長答弁

各町単位の支援協定もある行政は町民の生命と財産を守る使命が優先、県の指示待ち、支援協定市町村との調整が出来ず、結果は避難所へ食料支援が出来なかった。



公民館にも多くの方が避難されました

一般

質問

問